

令和8年度病害虫発生予察注意報第9号

令和8年10月5日
愛知県

作物名：果樹全般（カキ、カンキツ等）

病害虫名：果樹カメムシ類

（ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ）

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 多い
- 3 注意報発表の根拠

- （1）8月18日に令和8年度病害虫発生予察注意報第6号（果樹カメムシ類）を発表し、注意を呼びかけたところだが、9月中旬以降に本虫の発生が更に増加した。
- （2）9月下旬に県内11地点22ほ場（カキ）で行った巡回調査において、果樹カメムシ類による被害果率は平均11.32%（平年3.18%、前年0.45%）と過去10年で最も高い。
- （3）新城市に設置した予察灯における8月第6半旬から9月第5半旬までの総誘殺数は、チャバネアオカメムシで2486頭（平年224頭、前年160頭）、ツヤアオカメムシで682頭（平年33頭、前年34頭）といずれも過去10年と比較して最も多い。また、クサギカメムシで74頭（平年72頭、前年15頭）と、過去10年と比較して3番目に多い（図1）。
- （4）県内8地点に設置したチャバネアオカメムシのフェロモントラップにおける、直近1か月の誘殺状況は、小牧市で過去5年と比較して最も多い。豊川市で過去10年と比較して最も多い。幸田町、豊田市で過去10年と比較して2番目に多い。新城市で過去10年と比較して3番目に多い（図2）。
- （5）10月1日に静岡県で令和8年度病害虫発生予察警報第1号（果樹カメムシ類）が発表され、静岡県西部を中心として果樹園での大量飛来が確認されている。
- （6）名古屋地方気象台10月1日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高い見込みであり、果樹カメムシ類の活動に好適な条件となる。

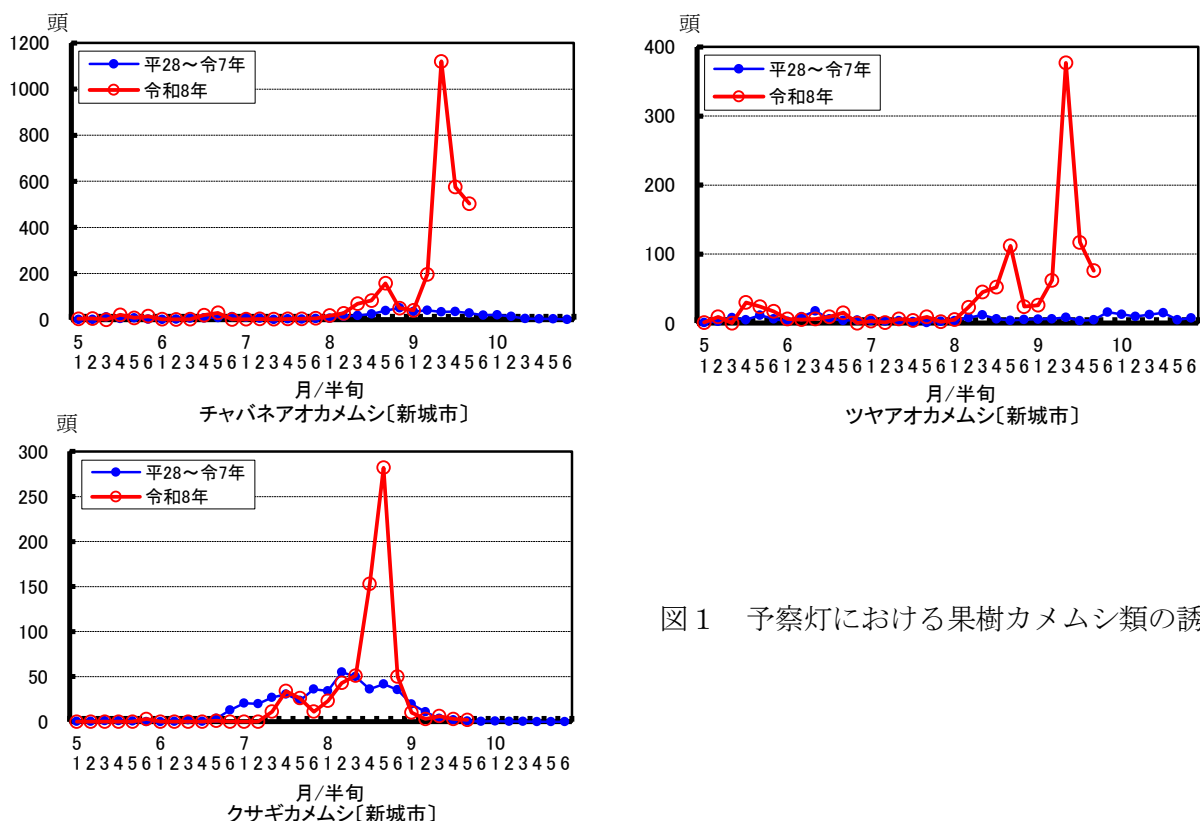


図1 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺状況

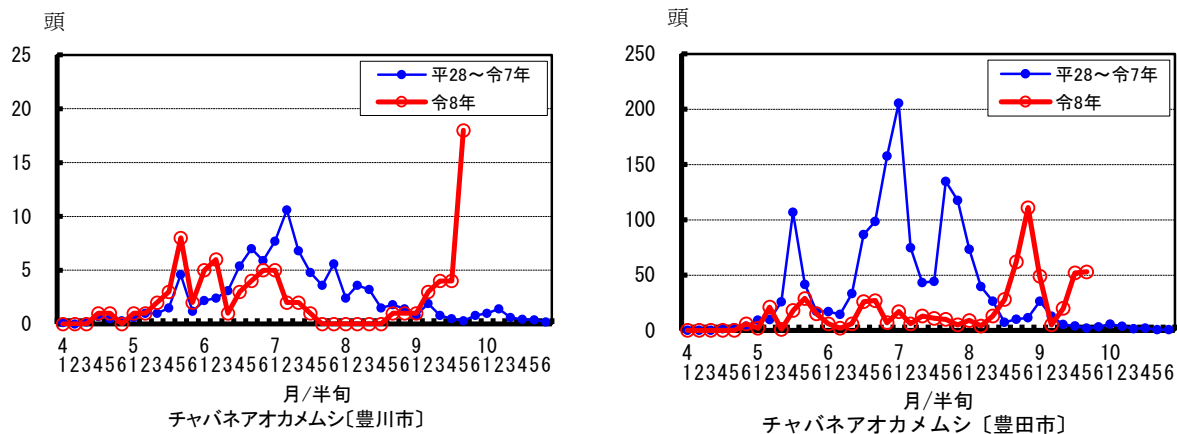


図2 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺状況

4 防除対策

- (1) 果樹カメムシ類は、夜温が高く風の弱い夜に果樹園へ飛来することが多い点を参考に、ほ場での飛来状況をよく確認する。局地的に飛来し、集中的に加害する傾向があるため、被害の発生状況は園地間差が大きい。過去に果樹カメムシ類の被害が多かった園や山林に近い園では特に注意する（図3、4）。
- (2) 台風等による強風が発生した場合、突然、果樹園へ多数飛来する可能性があるため注意する。
- (3) 飛来を確認したら、ネオニコチノイド剤もしくは合成ピレスロイド剤など各作物で登録のある薬剤で防除する。なお、合成ピレスロイド剤を連続使用すると天敵への悪影響が大きいため注意する。収穫中のほ場における薬剤の使用にあたっては、収穫前日数に注意する。

参考：農林水産省農薬登録情報提供システム (<https://pesticide.maff.go.jp>)



図3 カメムシ被害果実（カキ）



図4 カンキツ果実上の果樹カメムシ類

5 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室
電話：0561-41-9513